

ネットワーク型基幹研究プロジェクト日本関連在外資料調査研究・活用事業
北米における日本関連在外資料調査研究・活用
一言語生活史研究に基づいた近現代の在外資料論の構築―

中間評価報告書（第2次評価）

1. 総合評価

順調に進んでおり、質的・量的側面から十分な成果が見られる

2. 総合所見及び特記事項

（総合所見）

当初進捗状況が懸念されたところではあったが、国内および北米の関連機関との連携も進んできており、総合的には順調に進展しつつあると思われる。4年目以降は、これまで収集してきた資料群の分析結果の報告・情報発信をより強化していただきたい。特に今年度、国立歴史民俗博物館と国立国語研究所との共催で企画・実施するハワイへの日本人移民の歴史に関する展示において、本事業の調査研究成果が存分に活かされることを期待する。また、次世代研究者育成について様々な工夫をして強化されたい。さらに、他のプロジェクトとの連携も視野に入れて、本プロジェクトの最終目標の一つである移民資料論（当初の「在外資料論」を修正）の構築に向けて研究を進展させていくことを期待する。

（特記事項）

特に、改善を要する点

- ・総合的には順調に進展してきているものの、「研究成果・研究水準」の量的側面について、論文、著書等が未だ発表されておらず、平成30年度計画にある研究論文執筆、ワークショップの報告書の刊行など、実施されていない取組も見られる。同じく質的側面については、言語生活史に基づいた移民資料論（「在外資料論」を修正）の構築に向けての具体的な道筋が可視化できていない。研究体制の見直しも含めた検討を行って、研究の進展を図ることが期待される。